

# 第5回地震対策等専門部会の 概要について

---

令和5年8月23日

宮城県復興・危機管理部防災推進課

# 第5回地震対策等専門部会の概要

- 日 時 令和5年3月22日（水） 午後2時から午後3時45分まで
- 場 所 宮城県庁11階 第二会議室（Web会議併用）
- 出席者 座長 長谷川委員  
専門委員（学識経験者）  
運上委員、風間委員、遠田委員、増田委員、松澤委員、源栄委員  
専門委員（ライフライン等関係機関）  
加藤委員、菊池委員、佐藤委員、蓬田委員、吉岡委員、中嶋委員（代理出席）、大沼委員（代理出席）  
専門委員（国の機関）  
高江洲委員（代理出席）、高濱委員、平山委員  
防災会議委員  
佐藤委員
- 議事要旨
  - ① 揺れによる建物被害に関する検討について
    - ・ 調査結果をより有効に活用できるよう、検討過程で得られたデータや知見を最終報告書に盛り込む。
    - ・ 計算モデルの限界や地震・津波といった自然現象が有する不確実性など、活用上の注意点を最終報告書に盛り込む。
  - ② 被害の様相について
    - ・ 東日本大震災時のライフライン被害や、その後行われた対策も整理する。
    - ・ 市役所や学校など、防災対策上重要な施設で予測される震度等を整理する。
  - ③ その他
    - ・ 事後対策ではなく、事前対策が促進されるような対策を行うことが重要である。

# 第5回部会における意見への対応について

## ①揺れによる建物被害に関する検討について

意見	意見提出者	対応	備考
長町-利府線断層帯地震において、仙台の疑似速度応答スペクトルが過小評価されていないか。	源栄委員	仙台地点は、特に揺れが強い地域から離れているため、比較的低い値になっていると考えている。 また、計算モデルの有する限界等に起因する可能性もある。	
疑似速度応答スペクトルがどの程度か情報提供してほしい。	源栄委員	第5回部会の説明内容をベースとし、最終報告書に記述する。	
長町-利府線断層帯地震の強震動予測において、地表変位を考慮しているのか。	源栄委員	地表変位を考慮していないため、定性的な想定を補足として行う。	
計算モデルには限界があるので、それを報告書に記述すること。	長谷川座長	第5回部会の説明内容をベースとし、最終報告書に記述する。	
波の干渉による効果など、本調査で対象としての地震には不確実性があることを明示すべきではないか。	遠田委員	スラブ内地震に限らず、対象地震には不確実性があること、被害想定を行った4つ以外の地震が発生する可能性があることを最終報告書に記述する。	

# 第5回部会における意見への対応について

## ②被害の様相について

意見	意見提出者	対応	備考
予測ではライフラインのネットワーク性を考慮できないので、それを補完する意味でも東日本大震災当時の状況を追加するとよい。	松澤委員	整理して最終報告書に記述する。	
予測結果と東日本大震災の実績を比較できるようにしてほしい。	風間委員		
予測結果は表だけではなくグラフでも示すとわかりやすい。	遠田委員		
東日本大震災後に各管理者がどのような取り組みを行っているか、盛り込んでほしい。	風間委員		
市役所や学校など、防災対策上重要な施設において予測される震度・浸水深を整理すると対策を検討するうえで有用である。	増田委員	整理して最終報告書に記述する。	
被害箇所について、どのような程度のものを想定しているのか。	運上委員	道路の場合、災害復旧事業の対象となる程度の被害。最終報告書には計算手法も記述する。	
過去の地震による建物の耐力低減はどのように考えているか。	源栄委員	現手法では考慮していないので、計算上の限界などを注意点として最終報告書に記述する。	
調査結果を県だけではなく国・市町村も活用し、整合・連携した防災対応をとれるようにすると望ましい。	源栄委員	本調査の結果は公表し、広く活用できるようにする。防災対応については次回の部会で取り扱う。	

## ③その他

意見	意見提出者	対応	備考
事後対策よりも事前対策が促進されるような報告にすべき。	源栄委員	減災の効果を示すなど、事前対策の重要性を示した最終報告書にする。	